

(2) アグリマネジメント学科

1) 科目内容

<2年生>

※卒業後の進路希望に応じ、A-1またはA-2を選択する。

1. 科目名	A-1 農家現地実践実習	2. 担当教員	指導農業士、農業法人等 アグリマネジメント学科職員	
3. 授業概要	実施要領に基づき、県内の指導農業士、認定農業者等の先進農家等での現地実習を通じて、自らの就農課題を解決し経営計画等の改善を図る。計画の進捗状況等は、適時、ゼミナール方式等で発表し検討・修正する。 なお、現地実習がない期間は、大学校内等で実習を行い、プロジェクト実践実習実施要領に基づき課題を設定することができる。			
4. 到達目標	実践的な技術や知識を修得するとともに経営センスを磨き、就農に必要な実践力を身につける。			
5. 学習・評価方法	学習方法: 実習形式 評価方法: 出席、学習意欲および発表内容、中間および成果発表の取組姿勢			
6. 授業計画	月	実習内容		
	1~3	実習計画書の作成、現地実習先・期間の決定、実習計画書の承認		
	4	先進農家等・担当指導職員による指導・テーマに応じた校外派遣研修の実施		
	5	↓		
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			中間発表会
	12			
	1			
	2			成果発表会
	3	概要報告書の提出		

※合計コマ数: 480コマ

1. 科目名	A-2 プロジェクト実践実習	2. 担当教員	アグリマネジメント学科職員	
3. 授業概要	実施要領に基づき、卒業後の進路や今日的な課題などを考慮して、問題・課題の整理、計画作成から結果取りまとめ、考察までを主体的に取り組む。計画の進捗状況等は、適時、ゼミナール方式等で発表し検討・修正する。			
4. 到達目標	専門的・科学的な知識や技術、流通や経営の仕組みを修得するとともに、卒業後の進路に応じた課題解決能力を身につける。			
5. 学習・評価方法	学習方法: 実習形式 評価方法: 出席、学習意欲および発表内容、中間および成果発表の取組姿勢			
6. 授業計画	月	実習内容		
	1~3	課題の設定、実習計画書の作成、実習計画書の承認		
	4	担当指導職員による指導		
	5	↓		
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			中間発表会
	12			
	1			
	2			成果発表会
	3	概要報告書の提出		

※合計コマ数: 480コマ

1. 科目名	B-1 実践技術 I		2. 担当教員	アグリマネジメント学科職員、農業水産振興課職員		
3. 授業概要	各自が選択した品目についての理解と技術向上を図る。					
4. 到達目標	プロジェクト実践実習、農家現地実践実習で選択している品目を中心に今の課題を抽出し、適宜進捗報告を行いながら良品生産に向けて高い栽培技術と有利販売できる高い経営能力を身につける。					
5. 学習・評価方法	学習方法:講義およびディスカッション形式 評価方法:出席及び試験					
6. 使用テキスト	教員配付資料					
7. 授業計画	回	コマ数	授業演題	回	コマ数	授業演題
【野菜】	1	1	ナスの生理・生態について	7	1	トマトの栽培管理について
	2	1	ナスの栽培管理について(1)	8	1	トマトの生理障害と病害虫管理について
	3	1	ナスの栽培管理について(2)	9	1	トマトとナスの経営について
	4	1	ナスの生理障害と病害虫管理について	10	1	その他ナス科植物について
	5	1	トマトの生理・生態について	11	1	種苗法(コース共通講義) 農業水産振興課職員
	6	1	トマトの栽培管理について	12	1	試験
【果樹】	回	コマ数	授業演題	回	コマ数	授業演題
	1	1	ブドウの特色と栽培(1)	7	1	モモの特色と栽培
	2	1	ブドウの特色と栽培(2)	8	1	カンキツの特色と栽培
	3	1	ブドウの特色と栽培(3)	9	1	ブルーベリーの特色と栽培
	4	1	ブドウの特色と栽培(4)	10	1	オウトウの特色と栽培
	5	1	イチジクの特色と栽培(1)	11	1	種苗法(コース共通講義) 農業水産振興課職員
6	1	イチジクの特色と栽培(2)	12	1	試験	
【花き】	回	コマ数	授業演題	回	コマ数	授業演題
	1	1	奈良県および全国の花き生産について	7	1	ダリアの栽培について
	2	1	花きをめぐる情勢について	8	1	バラの生理・生態について
	3	1	キクの生理・生態について	9	1	バラの栽培について
	4	1	キクの栽培について(1)	10	1	球根類について
	5	1	キクの栽培について(2)	11	1	種苗法(コース共通講義) 農業水産振興課職員
6	1	ダリアの生理・生態について	12	1	試験	

※講義の順序は変更の可能性があります。

1. 科目名	B-2 実践技術Ⅱ		2. 担当教員	アグリマネジメント学科職員		
3. 授業概要	各自が選択した品目についての理解と技術向上を図る。					
4. 到達目標	プロジェクト実践実習、農家現地実践実習で選択している品目を中心に今の課題を抽出し、適宜進捗報告を行いながら良品生産に向けて高い栽培技術と有利販売できる高い経営能力を身につける。					
5. 学習・評価方法	学習方法:講義およびディスカッション形式 評価方法:出席及び試験					
6. 使用テキスト	教員配付資料					
7. 授業計画	回	コマ数	授業演題	回	コマ数	授業演題
【野菜】	1	1	イチゴの生理・生態について	7	1	スイカの栽培について
	2	1	イチゴの栽培について(1)	8	1	メロンの栽培について
	3	1	イチゴの栽培について(2)	9	1	キュウリの栽培について
	4	1	イチゴの栽培について(3)	10	1	カボチャの栽培について
	5	1	イチゴの病害虫管理について	11	1	ウリ科野菜の病害虫防除について
	6	1	ウリ科野菜の生理・生態について	12	1	試験
【果樹】	回	コマ数	授業演題	回	コマ数	授業演題
	1	1	カキ産地の歴史について	7	1	ウメの生理生態と栽培
	2	1	カキの生理生態について	8	1	ウメの生理生態と栽培
	3	1	カキの栽培技術について(1)	9	1	ナシの生理生態と栽培(1)
	4	1	カキの栽培技術について(2)	10	1	ナシの生理生態と栽培(2)
	5	1	カキの栽培技術について(3)	11	1	果樹の病害虫について
6	1	カキの脱渋・加工について	12	1	試験	

※講義の順序は変更の可能性があります。

1. 科目名	B-3 実践技術Ⅲ		2. 担当教員	アグリマネジメント学科職員		
3. 授業概要	各自が選択した品目についての理解と技術向上を図る。					
4. 到達目標	プロジェクト実践実習、農家現地実践実習で選択している品目を中心に今の課題を抽出し、適宜進捗報告を行いながら良品生産に向けて高い栽培技術と有利販売できる高い経営能力を身につける。					
5. 学習・評価方法	学習方法: 講義およびディスカッション形式 評価方法: 出席及び試験					
6. 使用テキスト	教員配付資料					
7. 授業計画	回	コマ数	授業演題	回	コマ数	授業演題
【野菜】	1	1	軟弱野菜の栽培について(1)	7	1	結球野菜の栽培について
	2	1	軟弱野菜の栽培について(2)	8	1	ネギ類の栽培について
	3	1	アスパラガスの栽培について	9	1	品質保持について(コース共通講義)
	4	1	根菜類の栽培について	10	1	園芸資材について(コース共通講義)
	5	1	ブロッコリーの栽培について	11	1	環境制御について(コース共通講義)
	6	1	結球野菜の栽培について	12	1	試験
【花き】	回	コマ数	授業演題	回	コマ数	授業演題
	1	1	花壇苗生産について	7	1	洋ランについて
	2	1	花壇苗の生理・生態、栽培について(1)	8	1	観葉植物・サボテン類・多肉植物について
	3	1	花壇苗の生理・生態、栽培について(2)	9	1	品質保持について(コース共通講義)
	4	1	グランドカバープランツについて	10	1	園芸資材について(コース共通講義)
	5	1	鉢花生産について	11	1	環境制御について(コース共通講義)
6	1	シクラメンについて	12	1	試験	

※講義の順序は変更の可能性があります。

1. 科目名	C-1 環境保全型農業	2. 担当教員	古山 賢治 (県職員OB)
3. 授業概要	環境保全型・有機農業の概要と現状および県内における現地事例について学ぶ。		
4. 到達目標	環境保全型・有機農業の基礎知識を修得し栽培に活用できる。		
5. 学習・評価方法	学習方法: 講義形式 評価方法: 出席及び試験		
6. 使用テキスト	「環境保全型農業の課題と展望」(大日本農会)		
7. 授業計画	回	コマ数	授業演題
	1	1	環境保全型農業を巡って ー現状と課題ー
	2	1	欧米における環境保全型農業について
	3	1	我が国の環境保全型農業の政策フレームとみどりの食料システム戦略(環境保全)について
	4	1	慣行農業について ー我が国の化学肥料技術の変遷ー
	5	1	有機農業について ー作物による有機物の直接吸収ー
	6	1	県内の環境保全型・有機農業の実践事例(1)
	7	1	県内の環境保全型・有機農業の実践事例(2)
	8	1	持続的で環境に優しい循環型農業について

1. 科目名	C-2 バイテク最先端技術	2. 担当教員	富山 昌克 (園芸研究家)
3. 授業概要	バイオテクノロジーの最先端技術と農業分野への応用。		
4. 到達目標	バイオテクノロジーに関する基礎知識の修得。		
5. 学習・評価方法	学習方法: 講義形式 評価方法: 出席及び試験		
6. 使用テキスト	教員配付資料		
7. 参考文献	「ラン科植物のクローン増殖」(トンボ出版)		
8. 授業計画	回	コマ数	授業演題
	1	2	・バイテクの理論 ・農業、園芸におけるバイテク活用と成果
	2	2	・バイテク育種を用いた商品開発 ・無菌播種から得られる変異個体作出の勧め
	3	2	・バイテクの設備機器 ・培地の作成法
	4	2	・バイテク栄養学を用いたオリジナル肥料比率の開発 ・試験

1. 科目名	C-3 環境リスクマネジメント	2. 担当教員	黒住 徹 (県職員OB)、 奈良地方気象台職員
3. 授業概要	農業と関わりのある気象環境に関する基礎知識や、農業気象災害に対する技術対策について学ぶ。		
4. 到達目標	気象等の基礎知識を修得し、農業気象災害によるリスクを軽減できる。		
5. 学習・ 評価方法	学習方法：講義形式 評価方法：出席及び試験		
6. 使用テキスト	教員配付資料		
7. 参考文献			
8. 授業計画	回	コマ数	授業演題
	1	1	気象と気候
	2	1	気象要素と作物生産
	3	1	気象と災害
	4	1	防災気象情報の利用
	5	1	農業気象災害と対策(1)
	6	1	農業気象災害と対策(2)、試験

1. 科目名	D-1 農業政策	2. 担当教員	近畿農政局、農業水産振興課、担い手・農地マネジメント課、奈良県農業会議、日本弁理士会近畿支部、なら担い手農地サポートセンター、社会保険労務士
3. 授業概要	奈良県農業の現状とそれを取り巻く情勢、農業経営に関連する農業政策、制度等について学ぶ。		
4. 到達目標	国や本県の農業政策等について理解し、自らの経営につなげる。		
5. 学習・ 評価方法	学習方法：講義形式 評価方法：出席及び試験		
6. 使用テキスト	教員配付資料		
7. 参考文献			
8. 授業計画	回	コマ数	授業演題
	1	1	国の担い手施策
	2	1	県の農業生産振興施策
	3	1	新規就農支援施策
	4	1	制度資金と補助制度、農業法人・農業者年金
	5	1	農地法、農業振興地域制度、農地中間管理機構
	6	1	農業保険制度、農地の貸借制度
	7	1	知的財産保護
	8	2	労務管理の基礎
	9	1	試験

1. 科目名	D-2 情報処理Ⅱ	2. 担当教員	電子自治体アドバイザークラブ 駒井健作・山本順子 (パソコン講師)
3. 授業概要	表計算ソフト応用 (グラフ、データベース、データ分析) の習得。プレゼンテーションソフトの活用。		
4. 到達目標	農業経営の分析・診断をはかり、プレゼンテーション力を実践する。		
5. 学習・評価方法	学習方法：講義形式 評価方法：出席及び試験		
6. 使用テキスト	「よくわかるWord2019&Excel2019&PowerPoint2019」 (実教出版) ※共同購入		
7. 授業計画	回	コマ数	授業演題
	1	2	Excel(1)復習・補完 (基本関数・絶対参照、シート・ファイル操作)
	2	2	Excel(2)グラフ作成
	3	2	Excel(3)データベース機能
	4	2	Excel(4)データベース機能
	5	2	PowerPoint(1)プレゼンテーション概要、スライド作成
	6	2	PowerPoint(2)プレゼンテーション概要、スライド作成
	7	2	PowerPoint(3)各自任意のプレゼンテーション作成
	8	2	PowerPoint(4)プレゼンテーション実行

1. 科目名	E-1 農産物流通	2. 担当教員	豊かな食と農の振興課、県中央卸売市場、 奈良県農業協同組合、市民生活協同組合なら コープ、量販店関係者、勝本吉伸((株)シンセニ アン)
3. 授業概要	農産物流通のしくみや多様な流通形態について、各分野の講師が講義を行う。		
4. 到達目標	農産物流通のしくみを理解し、自らの経営計画の作成に活用する。		
5. 学習・評価方法	学習方法：講義形式 評価方法：出席及び試験		
6. 使用テキスト	教員配付資料		
7. 授業計画	回	コマ数	授業演題
	1	1	農産物流通促進の取り組み
	2	1	直売所の現状と課題
	3	1	JAの流通戦略
	4	1	生協の流通戦略
	5	1	量販店による流通戦略
	6	2	市場流通
	7	1	試験

1. 科目名	E-2 海外農業情勢		2. 担当教員	日本貿易振興機構(JETRO)、県内農業者
3. 授業概要	世界の食料情勢と農産物輸出の現状や、実際の輸出事例を通じて、海外輸出の知識を修得し自らの経営の参考にする。			
4. 到達目標	世界の食料情勢と農産物輸出の現状について理解し、自らの経営について考える。			
5. 学習・評価方法	学習方法:講義形式 評価方法:出席及びレポート			
6. 使用テキスト	教員配付資料			
7. 授業計画	回	コマ数	授業演題	
	1	1	世界の食料情勢と農産物輸出の現状	
	2	1	農産物輸出の事例	
	3	1	海外販路開拓事例(1)	
	4	1	海外販路開拓事例(2)	

1. 科目名	F-1 食の安全・安心		2. 担当教員	薬務・衛生課、農業水産振興課、近畿農政局、奈良県植物防疫協会、病害虫防除所
3. 授業概要	食品の安全性、販売に係る法制度、生産管理手法、生産者の安全、輸入農産物の安全について、各分野の講師が講義を行う。			
4. 到達目標	食の安全性確保に関わる事柄を理解し、自らの経営計画の作成に活用する。			
5. 学習・評価方法	学習方法:講義形式 評価方法:出席及び試験			
6. 使用テキスト	教員配付資料			
7. 授業計画	回	コマ数	授業演題	
	1	1	食品の安全性の概念(食品安全基本法、食品衛生法)	
	2	1	安全性の確保(肥料取締法、農薬取締法)	
	3	1	食品表示(食品表示法)(有機農産物等)	
	4	1	生産情報開示(トレーサビリティ等)	
	5	1	農薬の安全使用	
	6	1	農薬登録までのプロセスおよび有機農産物の認定制度について	
	7	1	試験	

1. 科目名	F-2 おもてなし入門	2. 担当教員	吉村 司(eナレッジコミュニケーションズ代表)、 県内実践者
3. 授業概要	農業者が6次産業化を目指したり、自分の地域振興を図る際に求められる「消費者のニーズに合ったホスピタリティ(思いやりの心)」を通じて、消費者の期待以上の満足を提供する方法を学ぶ。		
4. 到達目標	・「おもてなし」の必要性とその具体的方法、県内外のブランド事例や最新動向に関する情報を修得する。 ・自らの農業経営において顧客を獲得する方法を修得する。		
5. 学習・ 評価方法	学習方法:講義、現地訪問形式 評価方法:出席及びレポート		
6. 使用テキスト	教員配付資料		
7. 授業計画	回	コマ数	授業演題
	1	2	マナー、接客(実践演習含む)
	2	2	現地実習(1)
	3	2	現地実習(2)
	4	2	現地実習(3)

1. 科目名	G-1 地域ブランド農産物	2. 担当教員	農林(業)振興事務所職員
3. 授業概要	県農林(業)振興事務所管内の地域特産物の産地事例について学ぶ。		
4. 到達目標	地域特産物の産地事例について学び、自らの経営計画作成に活用する。		
5. 学習・ 評価方法	学習方法:講義、現地訪問形式 評価方法:出席及びレポート		
6. 使用テキスト	教員配付資料		
7. 授業計画	回	コマ数	授業演題
	1	4	地域特産物の産地事例 (北部農業振興事務所管内)
	2	4	地域特産物の産地事例 (中部農林振興事務所管内)
	3	4	地域特産物の産地事例 (東部農林振興事務所管内)
	4	4	地域特産物の産地事例 (南部農林振興事務所管内)

1. 科目名	G-2 6次産業化演習		2. 担当教員	西野 慎一（野菜ソムリエ上級プロ）・松田弘子（野菜ソムリエ上級プロ）・県内実践者
3. 授業概要	6次産業化の手法について、県内の事例や演習を交えながら、メリットや手法および着眼点を学ぶ。			
4. 到達目標	加工による農産物の有効利用と付加価値の付与についてのメリットや方法の基礎を理解する。			
5. 学習・評価方法	学習方法：講義・演習 評価方法：出席及びレポート			
6. 使用テキスト	教員配付資料			
7. 授業計画	回	コマ数	授業内容	
	1	2	ブランディングの基本（ブランディングとは）	
	2	2	ブランディングの基本（強み） ブランディングの基本（目線の置き方）	
	3	2	ブランディングの基本（実践取組事例）	
	4	2	ブランディングの基本（伝え方） ブランディングの基本（ターゲット）	
	4	1	発表	
	5	2	加工場見学	
	6	2	農産加工実習	
7	2	農産加工実習		

1. 科目名	H-1 特別講義		2. 担当教員	外部講師、農業研究開発センター職員
3. 授業概要	各界の専門講師を招き、国際的な農業情勢や高度・新たな農業技術（スマート農業等）及び農業経営について学ぶ。			
4. 到達目標	高度・新たな専門的農業技術（スマート農業等）及び農業経営センスの修得。			
5. 学習・評価方法	学習方法：講義形式 評価方法：出席及びレポート			
6. 使用テキスト	教員配付資料			
7. 授業計画	回	コマ数	授業演題	
	1	2	農業研究開発センター研究紹介	
	2	2	農業経営力強化講座（1）	
	3	2	農業経営力強化講座（2）	

1. 科目名	H-2 イベント企画運営		2. 担当教員	アグリマネジメント学科職員
3. 授業概要	NAFIC祭、中間発表会に積極的な参加をとおして、地域・グループ活動等をする上で必要となる企画力並びにコミュニケーション、プレゼンテーション能力を身につける。			
4. 到達目標	企画力並びにコミュニケーション、プレゼンテーション能力を向上させる。			
5. 学習・評価方法	評価方法：出席及び取組み態度、発表内容等			
6. 使用テキスト	教員配付資料			
8. 授業計画	回	コマ数	授業演題	
	1	4	NAFIC祭準備	
	2	4	NAFIC祭	
	3	4	中間発表会	